

## 2011 年度 消費者・市民教育モデル事業報告書

### － 消費者教育フェスタの開催 －

社会的責任に関する円卓会議  
人を育む基盤の整備WG共同主査

#### I. 2011 年度の取り組み概要

「人を育む基盤の整備ワーキンググループ」では協働プロジェクトの一つとして消費者・市民教育モデル事業の地方展開を掲げるなど、持続可能な社会を担う人材の育成に取り組んでいる。

2011 年度は、昨年度のモデル事業(※)に引き続き、文部科学省が主催する「消費者教育フェスタ」を東京、岐阜の 2 ヶ所で開催し、企業・業界団体、消費者団体等に対して、資料・教材の展示やデモンストレーション授業の実施を呼びかけるなど、企画・実施に協力した。

#### ※ 2010 年度の取り組み

消費者・市民教育モデル事業を東京で実施

- ① 日時：2011 年 2 月 22 日
- ② 場所：文部科学省東館 3 階講堂
- ③ シンポジウム：テーマ「持続可能な社会を担う人材育成への提言～それぞれの立場から～」
- ④ 模擬授業：消費者団体や事業者など 14 団体が実施
- ⑤ 資料・教材の展示：37 団体が資料・教材を展示
- ⑥ 参加者数：都道府県・教育関係者約 190 名、各セクター関係者約 140 名など  
約 330 名が参加

#### II. 消費者教育フェスタ東京会場の開催概要

- ① 日時：2012 年 1 月 18 日
- ② 場所：文部科学省東館 3 階講堂他
- ③ 趣旨：消費者教育に関する連携・協働の先進事例や学校における指導者養成講座などの成果を広く還元するとともに、民間団体や企業などが作成した教材等を教育関係者に紹介することで両者の連携・協力による消費者教育の推進を図る。

#### ④ パネルディスカッション

テーマ：多様な主体の連携・協働による自立した消費者・市民の育成について

コーディネーター：上村協子 東京家政学院大学教授

パネリスト：教育委員会、地方自治体消費者関係部局、事業者、消費者団体関係者

##### 【パネルディスカッション議事要旨】

◇各パネリストがそれぞれの立場からの取り組みを紹介。

◇教育委員会からは、教員の間での情報共有の取り組みや実際の教科における消費者教育の実践について、地方自治体からは消費者教育の体系の取りまとめについて、事業者からは企業をとりまく潮流や企業が行う啓発活動について、消費者団体からは地域における消費者教育の出前授業について、それぞれ紹介した。

◇意見交換では、お互いに情報交換する場が必要だという意見や、それぞれが共同体の一員だという意識をもって、協働の取り組みを行っていくことが重要だという指摘がなされた。

#### ⑤ 資料・教材の展示：以下の 36 企業・団体が協力

消費者関連専門家会議(A C A P)、東京ガス、日本証券業協会、日本損害保険協会、消費者教育支援センター、野村ホールディングス、東芝、金融広報中央委員会、公正取引委員会、国民生活センター、プロミス、経済広報センター、東京海上日動火災保険、ダイキン工業、日本労働組合総連合会、サントリー、第一生命保険、生命保険文化センター、日本自動車工業会、日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会(NACS)、日本弁護士連合会、積水ハウス、花王、カルビー、シャープ、日本フィナンシャル・プランナーズ協会、全国銀行協会、ソフトバンクモバイル／企業教育研究会、早稲田大学環境教育支援プログラム／企業教育研究会、全国消費生活相談員協会、日本生活協同組合連合会、「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議(ESD-J)、金融庁、環境省、消費者庁、神戸市

#### ⑥ 参加者数：199 人

### Ⅲ. 消費者教育フェスタ岐阜会場開催概要

① 日時：2012 年 2 月 22 日、23 日

② 場所：岐阜市立長良東小学校、岐阜市立東長良中学校他

③ 趣旨：小中学校において親子で学ぶ消費者教育の実践を広く公開するとともに、地域で消費者教育を推進する学校教育、社会教育、消費者担当部局や、消費者団体、企業等様々な関係者が一堂に会して、地域における協働・連携による消費者教育推進のきっかけづくりを目指す。

#### ④ シンポジウム

テーマ：地域社会における消費者教育 ～連携・協働をテーマに生まれるもの～

コーディネーター：西村隆男横浜国立大学教授

パネリスト：学校関係者、専門家、事業者、消費者団体関係者

#### ⑤ デモンストレーション授業：以下の 32 企業・団体が生徒と保護者に対して授業を行った。

<小学校>

第 4 学年：東芝、シャープ、東京海上日動火災保険、カルビー

第 5 学年：生活協同組合コープぎふ、積水ハウス、岐阜新聞社

第 6 学年：岐阜県県民生活相談センター、中部電力、朝日新聞社、十六銀行

<中学校>

第 1 学年：岐阜県金融広報委員会、製品評価技術基盤機構 (NITE)、パナソニック、毎日新聞社、国民生活センター、消費者関連専門家会議 (ACAP) / プロミス、ソフトバンクモバイル / 企業教育研究会

第 2 学年：消費者教育支援センター、大垣共立銀行、KDDI、読売新聞社、日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 (NACS)、第一生命保険、早稲田環境教育推進機構 / 企業教育研究会

第 3 学年：岐阜県司法書士会、岐阜市消費生活センター、中日新聞社、生命保険文化センター、全国銀行協会、花王、公正取引委員会

#### ⑥ 資料・教材の展示：以下の 38 企業・団体が実施

金融広報中央委員会 / 岐阜県金融広報委員会、公正取引委員会、国民生活センター、製品評価技術基盤機構 (NITE)、経済広報センター、生命保険文化センター、消費者関連専門家会議 (ACAP)、日本証券業協会、日本損害保険協会、消費者教育支援センター、日本生活協同組合連合会、生活協同組合コープぎふ、日本自動車工業会 / トヨタ自動車、岐阜県県民生活相談センター / 岐阜県環境生活政策課、岐阜市消費生活センター、全国銀行協会、日本弁護士連合会、日本労働組合総連合会、岐阜県司法書士会、「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議 (ESD-J)、野村ホールディングス、東芝、ダイキン工業、第一生命保険、シャープ、プロミス、カルビー、中部電力、サントリー、積水ハウス、岐阜新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、ソフトバンクモバイル / 企業教育研究会、早稲田環境教育推進機構 / 企業教育研究会、環境省、金融庁、消費者庁

#### ⑦ 参加者数：2 日間で延べ 1027 人 (児童・生徒、保護者、模擬授業実施者等も含む)

#### IV. 「消費者教育フェスタ in ぎふ」の様相

##### 1. 第1日目（2月22日）

###### 【第1日目（2月22日）のプログラム】

場所：（2月22日）岐阜市立長良東小学校、岐阜市立東長良中学校

【長良東小学校】		【東長良中学校】
	13:00	【消費者教育授業公開】
【消費者教育授業公開】	13:20	
	14:00	
	14:15	【消費者教育ワークショップ】 ＜21 の企業・団体によるデモン ストレーション授業＞
14:20		
14:30		
【消費者教育ワークショップ】 ＜11 の企業・団体によるデモン ストレーション授業＞		
移動・休憩	15:15	移動・休憩
	15:30	児童生徒による発表
	15:45	講評 国立教育政策研究所 樋口雅夫 教育課程調査官
		講演 「かしこい消費者になるために ～身近な生活談義～」 三瀬 顕 弁護士(元NHK『生活笑百科』コメンテーター)

【消費者教育に関する教材・資料の展示（38の企業・団体）】

13:00～17:00

東長良中学校体育館

## (1) 消費者教育授業公開

教員による消費者教育等の公開授業を実施。

### 【公開授業内容一覧】

◆小学校（13：20～14：20）			
【教科等】	【学級】	【場所】	【学習内容】
生活	1年1組	音楽室・ 北舎2階	「おつかい名人になろう」 ～親子で「おつかいすごろく」を行い、楽しみながらよりよい消費生活について学びます。～
道徳	3年1組	3年1組 教室・ 南舎3階	1－（1）節度ある生活 ～物や金銭を大切にするなど、節度ある生活を送るという点から自分を見つめ、自分の改定生活について親子で話し合います。～
家庭	5年1組	体育館	「我が家の買い物を見つめて」 ～親子で我が家の買い物のよい点と課題を見つめ、よりよい買い物の仕方について話し合います。～
学級活動	6年3組	体育館	「風評被害について考える」 ～東日本大震災による農産物の風評被害について、親子で話し合い、－消費者として何ができるかを考えます。～
◆中学校（13：00～14：00）			
学級活動	1年2組	1年2組 教室・ 南舎1階	「園芸活動の経費を有効に活用するために」 ～話し合い活動を通して、園芸活動の経費を最大限に活用し、有効に使用して、活動を充実する方法やアイデアを探ります。～
学級活動	1年5組	1年5組 教室・	「インターネットを賢く使える消費者になろう」 ～話し合い活動を通じて、ネット社会の世の中を賢

		南舎2階	く生きるための方法について自分たちは何ができるのかを考えます。～
技術・家庭	2年2組	被服室・ 北舎3階	「商品の選択と購入」 ～親子で商品の情報を様々な視点から見つめ、商品のよりよい選択について学びます。～
社会	3年1組	3年1組 教室・ 北舎2階	「わたしたちの暮らしと経済」 ～自立した消費者を目指し、消費者保護の問題について話し合います。～

【教員による消費者教育授業公開の様様】



## (2) 消費者教育ワークショップ

### ～各種企業・団体によるデモンストレーション授業～

◇企業・行政・消費者団体など 32 団体が小中学生・保護者を対象にデモンストレーション授業を実施。

#### 【各企業・団体によるデモンストレーション授業の概要】

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
東芝	小学校第4学年	理科実験室
<b>【授業概要】</b>		<b>【授業風景】</b>
<p>「ペーパータオルテスト」</p> <p>数種類のペーパータオルを素材に、吸収力や湿潤強度(濡れたときの強さ)の実験や、価格/価値の観点から、消費者としてどのペーパータオルを選択すべきかを、実験や体験を通じて考えていきます。このワークショップは、アメリカのUCバークレー校で開発された GEMS という体験型の理数教育プログラムのひとつであり、東芝が支援する NPO 法人体験型科学教育研究所(リアルサイエンス)と協働で行います。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
シャープ	小学校第4学年	4-2 教室
<b>【授業概要】</b>		<b>【授業風景】</b>
<p>「地球を守る環境教室(地球温暖化と新エネルギー)」</p> <p>シャープ社員と気象キャスターが、地球温暖化とその解決方法について、気象の知識やデータ、ソーラーパネルのセルの実物や発電実験などを用い、それぞれの専門性を活かした環境授業を行います。児童が積極的に参加できる理科実験やクイズ等を取り入れ、双方向性高く子どもたちの興味を高める工夫を行い、また、学習指導要領に沿った内容とすることで、学習の促進はもちろん、職業観の醸成にもつなげます。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
東京海上日動火災保険	小学校第4学年	4-3教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「みどりの授業～マングローブ物語～」</p> <p>「マングローブ」というユニークな特性をもつ植物を題材とし、「地球温暖化防止」・「生物多様性」について学習した上で生徒一人ひとりが地球環境を守るために何ができるか話し合う授業です。当社は、1999年から東南アジアでマングローブの植林を実施しており、授業の題材にはマングローブの写真や映像を用い、本物の種に触れてもらうほか、植林活動に参加した社員が体験談を語りマングローブの具体的なイメージをつかんでもらえるようにしています。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
カルビー	小学校第4学年	4-4教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「カルビースナックスクール」</p> <p>子どもの身近なおやつから、大切な「食」を考えます。授業を通じて、「楽しい食生活」について学び、実際に行動する力を培います。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
積水ハウス	小学校第5学年	家庭科室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「キャプテンアースの『いえエコロジー』セミナー」</p> <p>実験や予想などの「体験」と「ゲーム性」を取り入れながら、地球温暖化と暮らしとの関わりを学び、「住宅」という暮らしの中にある身近な題材をもとに「エコな暮らし方」の理解と、「子どもたち自らのアクション」を促します。子どもたちの主体性を重視し、「気付き」や「発見」の楽しさから「理科離れ」を解消していくものです。</p>		